第 11 回日本－台湾薬学ジョイントシンポジウムに参加

令和 8（2026）年 9 月 4 日、長崎大学、北海道大学、東北大学及び九州大学と台湾の台北医学大学及び国立陽明交通大学の 6 大学が参加した第 11 回日本-台湾薬学ジョイントシンポジウムが、台北医学大学（Cheng-Pu Conference Hall）にて開催されました。

このシンポジウムは、北海道大学、台北医学大学及び九州大学の 3 大学により平成 27 年に第 1 回目が北海道大学にて開催されたことに始まり、第 4 回より台湾の国立陽明大学、東北大学及び長崎大学が加わり、現在は 6 大学で開催するシンポジウムとなっています。

今回のシンポジウムでは、各大学を代表する教員と学生の総数 25 名による分析化学・薬剤学、天然物・医薬品化学、臨床薬学そして生化学・薬理学に特化した研究発表が行われました。講演は対面で実施され、研究成果への活発な質疑応答や意見交換が行われ、台湾と日本の薬学および医療に関する最新の研究に触れた刺激ある素晴らしいシンポジウムとなりました。

本学を代表して西田孝洋 薬学部長が出席され、教員の講演者として松久幸司 准教授（創薬薬理学研究室）と渕靖史 准教授（薬品分析化学研究室）、学生の講演者として生命薬科学専攻博士後期課程 2 年の中嶌萌衣さん（薬剤学研究室）と医療科学専攻博士課程 1 年の高山理紅さん（医薬品情報学研究室）とがそれぞれ英語による口頭発表を行いました。シンポジウム後の意見交換会では台湾側の教員や学生と講演内容に関する活発な議論が行われ、研究交流や異文化交流が促進された貴重な機会となりました。なお、今回の講演者の派遣は、長薬同窓会（長崎大学薬学部創立 125 周年記念事業寄付金）の支援により実施されました。来年度は、九州大学の主催で第 12 回シンポジウムを博多にて開催する予定です。台湾側 2 校とは大学間学術交流協定並びに学生交流覚書を締結しており、今後さらなる学術交流の促進が期待されます。



シンポジウム会場の様子



左から渕准教授、松久准教授、中嶌さん、高山さんの発表の様子



学生発表者への修了証の贈呈（左）と長崎大学からの参加者の集合写真（右）



西田学部長から台北医学大学の Chen 学部長へのお土産の贈呈（左）、学生の意見交換会の様子（右）



病院見学（左）と製薬企業見学（右）の様子

文責：薬学部国際交流委員　鳥羽　陽